キャラクター名
風下

プレイヤー名

シンドローム	ハヌマーン ブラックドッグ	ワークス	記者	カヴァー	記者
オプショナル		年齢	26歳	性別	女
覚醒	素体	衝動	闘争	初期侵食率	43 %
出自	複数の兄弟姉妹	経験	実験体	邂逅	保持

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	3	0	0			3
感覚	2	0	0			2
精神	2	1	0			3
社会	1	0	0			1

HP	29
行動値	22
(非装備時)	22
戦闘移動	27
全力移動	54

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			ＲＣ			交渉	1	
回避			知覚	1		意志			調達		
運転：	2		芸術：			知識：	2		情報：ウェブ	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
小型浮遊砲	射撃	2r-2		5		装甲無視
浮遊砲	射撃	2r+15		5+3D		
浮遊大砲	射撃	2r+15		39+3D		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品

ロックオンサイト	

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
神速の担い手	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 2	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
先手必勝	5	—	常時	至近	自身	自動	—	
効果： 行動値+LV×3								
スピードスター	1	5	セット	至近	自身	自動	Dロイス	
効果： 行動値を攻撃力に加算								
加速装置	3	2	セット	至近	自身	自動	-	
効果： このラウンド時、行動値+LV×4								
アタックプログラム	5	2	メジャー	武器	—	対決	-	
効果： 組み合わせの攻撃達成値+LV×2								
ウェポンフォーカス	3	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果： 命中判定+LV								
ハードワイヤード	5	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果： ブラックドックの専用武器取得								
音速攻撃	3	2	メジャー	武器	—	対決	—	
効果： 攻撃ダイス+LV個								
七色の声	1	1	メジャー	至近	自身	自動	—	
効果： 声の偽装を行う								
真偽感知	1	2	メジャー	視界	単体	自動	—	
効果： 嘘を見抜くエフェクト								
電波障害	1	—	メジャー	視界	シーン	自動	—	
効果： 電波をかく乱する								
タッピングオンエア	1	1	メジャー	視界	—	自動	ー	
効果： 情報の送受信、無線電波の傍受								
シークレットポケット	1	—	常時	至近	自身	自動	ー	
効果： 身体のどこかに小さなものを隠しておけるエフェクト								
効果：								

内閣特別専務情報局という、政府の秘密組織に勤めていたエージェント。
仕事内容は政治家が起こした不祥事の隠蔽、他国情報機関の牽制、インターネットを介した情報操作など多岐に渡り、それぞれに専門技能持ちのエージェントが携わっている。彼女はその中でもある程度潜入活動可能な戦闘要員という分類で、使い勝手が良いエージェントとして重宝されていた。とりわけ移動能力は秀でており、日本国内でいえば飛行機よりも彼女の速度が勝る程。しかし、連絡ならば電波の方が早いので、小荷物の運搬に限り彼女は絶対の能力が保証されている現状。
UGNともFHなどオーヴァード組織に関してはどこにも加担しない不可侵を決め込んでおり、それがどんなに正義の為であろうと協力はしない。逆に真逆の行いをしてようと必要な時には殺人鬼であろうと協力又は利用する。
彼女自身も自分は善人でないことは百も承知だが、人間誰しもが咎人だなと思っているのでこの生き方に不満はない。

彼女が普段愛用している一眼レフのカメラは、特殊な加工が施され、自立飛行が可能となっている。加えて、一弾レフでもあり彼女の主力武器として使われる。内部でオーヴァードの力を増幅させ、光線を照射する。

内閣特別専務情報機関は、エンドラインの世界においては壊滅的な状態にあり、FH勢力の増加に伴い機関の情報を欲したFHの進行が行われた際に、内部情報を死守するために自ら自爆。エージェントは散り散りに逃亡した。現在彼女は自分の能力にあった仕事であるフリーの記者として活動し、生活資金を得ている。FHに関しては快くは思っていないが、弱肉強食がまかり通る世界で生きてきたために単純に自分達の力不足と、そこまで恨んではいない。機関の復興に関しては積極的ではないが、話があれば参加する予定ではいる。機を伺っているといえば聞こえはいいが、要は他人任せである。住まいは都内にある賃貸を借りており、ルームシェアをして暮らしている。